

自然教育園の動物目録の追録と 稀種動物の目撃記録 (16)

久 居 宣 夫*

Notes on Newly or Rarely Observed Animal Species
in the Institute for Nature Study (16)

Nobuo Hisai*

は じ め に

今回は、2005年1月から2005年12月までに新たに生息が確認されたり、目撃された種あるいは前報(久居, 2005)までに記録がもれた種について報告する。稀種については、「動植物目録」(国立科学博物館附属自然教育園, 1984)中で、r: “稀”, または(r): “古い記録はあるが、現在未確認の種”とされている全ての種を対象にしたが、これら以外にも最近特に個体数や目撃記録が著く減少した一部の種も対象とした。

なお、日付は目撃あるいは捕獲した西暦年月日を、以下目撃または捕獲地点(図1参照)及び目撃者、捕獲者名をそれぞれ示し、氏名のない場合は著者の記録によるものを示す。

本報告をまとめるにあたって、日頃より貴重な情報を提供して下さった下記の方々に感謝の意を表する次第である(50音順, 敬称略)。

大和田守(MO), 桑原香弥美(KK), 菅原十一(TS), 須田研司(KS), 濱尾章二(SHM), 矢野 亮(MY), 吉井三恵子(MYO), 若松克己(KW)

1. 追 録

Arthropoda 節足動物門

Crustacea 甲殻綱

Sinodiaptomus sp. (カラヌス目ヒゲナガケンミジンコ科)

Eucyclops serrulatus (Fischer) (ケンミジンコ目ケンミジンコ科)

Tropocyclops sp.1 s. Ishida (ケンミジンコ目ケンミジンコ科)

Paracyclops affinis (Sars) (ケンミジンコ目ケンミジンコ科)

Mesocyclops pehpeiensis Hu (ケンミジンコ目ケンミジンコ科)

Thermocyclops crassus (Fischer) (ケンミジンコ目ケンミジンコ科)

Canthocamptus kitaurensis Kikuchi (ソコムジンコ目ツツガタケンミジンコ科)

* 国立科学博物館附属自然教育園, Institute for Nature Study, National Science Museum, Tokyo

Canthocamptus macrosetifer Ishida (ソコミジンコ目ツツガタケンミジンコ科)

Elaphoidella grandidieri (Guerne et Richard) (ソコミジンコ目ツツガタケンミジンコ科)

上記のミジンコ類は、いずれも2003年4月15日に北海道余市町の石田昭夫氏と北海道大学の大学院生富川光氏が本園で採集したもので、上記以外の種も含めた詳細は石田ほか(2004)によって報告されている。これらのうち*P. affinis*, *Tropocyclops* sp.1, *C. macrosetifer*の3種は東京の都市部からは初記録であるという。

Insecta 昆虫綱

Curculio hilgendorfi (Harold) シイシギゾウムシ(鞘翅目ゾウムシ科)

記録がもれていた種で、園内では毎年秋にスダジイの落果に幼虫の脱出孔が多く見られる。分布は本州・九州・沖縄・石垣島で、成虫は8月中旬-9月に出現する。

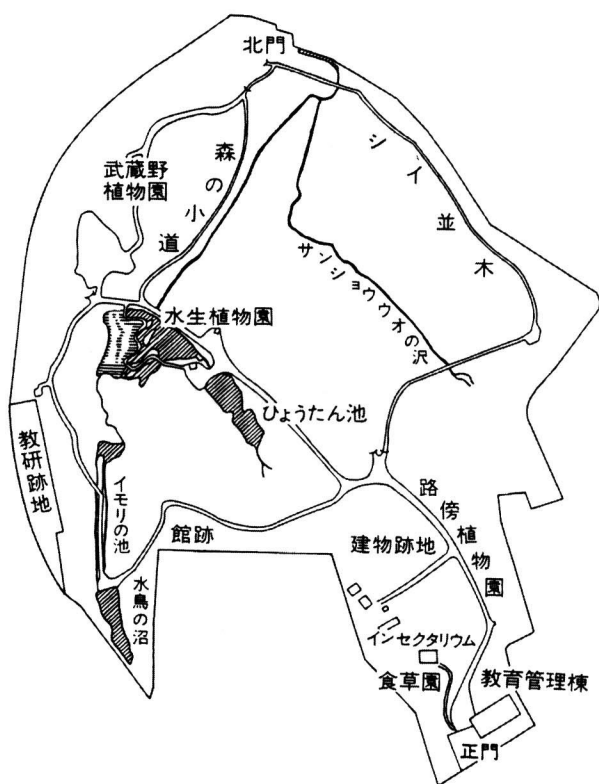


図1 自然教育園概略図

2. 稀種の記録

(1) 昆虫類

Rhythemis fuliginosa Selys チョウトンボ(蜻蛉目トンボ科)

2005.8.4 水生植物園 2exs MY

園内では稀に飛来個体が見られ、前年にも記録されている(久居, 2005)。

Micadina phluctaenoides Rehn トビナナフシ (ナナフシ目ナナフシ科)

2005.10.27 食草園 MY

本園ではエダナナフシは普通であるが、本種は少なく、これまで記録されているのは1989年(久居, 1990)と1999年(山崎, 2001)にすぎない。

Parachauliodes japonicus (MacLachlan) ヤマトクロスジヘビトンボ (脈翅目ヘビトンボ科)

2005.6.11 サンショウウオの沢 KS

上記の場所で多く見られるが、このほか北門、建物跡地、教育管理棟付近、水生植物園などでも見られている(久居, 1987, 1989, 1996, 2005)。

Cryptotympana facialis facialis (Walker) クマゼミ (半翅目セミ科)

2005.8.2 教育管理棟裏 TS, 館跡; 8.4 インセクタリウム付近; 8.8 正門前; 8.20 教育管理棟付近 MY; 8.21 正門, 食草園; 8.27 水生植物園; 9.3 教育管理棟付近

Papilio machaon hippocrates C. et R. Felder キアゲハ (鱗翅目アゲハチョウ科)

2005.5.11 水生植物園 MY

ここ数年、水生植物園のノダケに卵と幼虫が見られる。

Papilio memnon thunbergii Siebold ナガサキアゲハ (鱗翅目アゲハチョウ科)

2005.5.5 サンショウウオの沢 1♂ KS; 6.21 いもりの池付近 1♂ KS; 6.24 正門前 1♀; 7.7 食草園 1♂; 7.8 食草園 1♂; 10.2 正門前 1♂; 10.19 水生植物園 1♂ KS

本園では2003年以後毎年見られる(久居, 2004, 2005)。食草園に植栽されているカラタチに産卵しているのを確認しており(久居, 2005)、園内で発生しているのは確実であろう。

都区内の緑地では常盤松御用邸(正仁親王ほか, 2005)と赤坂御用地(大和田ほか, 2005)でも見つかった。

Colias erate poliographus Motschulsky モンキチョウ (鱗翅目シロチョウ科)

2005.8.8 食草園

ここ数年毎年のように目撃される。上記は食草園でシロツメクサに産卵している雌を見た記録である。本園では個体数は少ないが、都区内の緑地のうち皇居(久居ほか, 2000, 2006)や水元公園(葛飾区郷土と天文の博物館, 1999)では普通である。

Anthocharis scolymus Butler ツマキチョウ (鱗翅目シロチョウ科) (図2)

2005.4.7 食草園 1♂ MY; 4.8 水生植物園東側湿地 7-8♂ KS; 4.9 水生植物園東側湿地 3♂;

4.10 食草園 1ex, 水生植物園 1ex; 4.15 食草園 1♂, 建物跡地 3♂; 4.16 建物跡地 3exs, 水生植物園東側湿地 3exs, 武蔵野植物園 1♂; 4.17 建物跡地 2exs; 4.21 建物跡地 1♂; 4.23 水生植物園 1♂ 2♀, 水生植物園東側湿地 3exs, 教研跡地 1♂ 2♀; 4.24 水生植物園 1♂ 1♀, 水生植物園東側湿地 2♂ 2♀, 教研跡地 1♂ 1♀; 4.27 水生植物園 1♀, 建物跡地 2exs

2005年は園内各所で例年よりも多くの個体が頻繁に目撃された。また、4月23日には水生植物園のタネツケバナに、教研跡地のハナダイコン(ショカツサイ)にそれぞれ産卵しているのを目撃した。

Narathura japonica japonica (Murray) ムラサキシジミ(鱗翅目シジミチョウ科)(図3)

2005.6.25 食草園 MY; 10.20 森の小道入口 1ex; 10.21 食草園 1ex; 10.25 水生植物園 1ex, 食草園 1ex; 10.27 食草園 1ex MY; 11.1 正門付近 1ex MY; 11.5 土塁付近路傍 1ex; 11.18 インセクタリウム裏 1ex

秋の記録が多い。早春や夏にも見られ(久居, 2005), 園内で発生しているのは確実である。食餌植物のカシ類やコナラ・クヌギは園内に多く生育する。

Narathura bazalus turbata (Butler) ムラサキツバメ(鱗翅目シジミチョウ科)(図4)

2005.4.10 正門前 MY; 10.20 水生植物園 1ex; 10.23 食草園 1ex MY; 10.25 水生植物園 1ex; 11.1 食草園 1ex MY; 11.2 食草園 1ex; 11.5 土塁付近路傍 1♂

2002年以後毎年目撃される。前報(久居, 2004)では本園では成虫が越冬できず、飛来個体の記録であらうとしたが、東京でも越冬成虫が見られたとの情報があり(斉藤, 私信), 園内に定着する可能性もある。食餌植物のマテバシイは教育管理棟前と食草園に植栽されている。都区内の緑地では本園以外に皇居(久居ほか, 2006)と新宿御苑(自然環境研究センター, 2003)でも見つかった。

Japonica lutea lutea (Hewitson) アカシジミ(鱗翅目シジミチョウ科)

2005.5.22 正門前 3exs; 5.24 正門前 4exs; 5.28 北門付近 1ex MO; 5.29 正門前 1ex; 6.4 正門前 2exs; 6.8 正門前 2exs

2003年以後は毎年目撃されており、園内で発生しているものと考えられる。皇居でも2002年以後毎年見つかった(久居ほか, 2006)。

Antigius attilia attilia (Bremer) ミズイロオナガシジミ(鱗翅目シジミチョウ科)

2005.6.8 路傍植物園 SHM et KK; 6.21 あずまや付近 KS

本種も毎年のように見られ、園内で発生しているのは確実である。都区内では皇居で1996年以後見られている(久居ほか, 2000, 2006)。

Rapala arata (Bremer) トラフシジミ(鱗翅目シジミチョウ科)

2005.4.9 食草園; 6.21 正門前 1ex, 路傍植物園 5-6 exs MY, 6-7exs KS

前年ほどではないが、夏型は比較的多くの個体が見られた。本園以外に都区内の緑地では皇居のほか赤坂御用地(吉田・安藤, 2002; 大和田ほか, 2005)でも見つかった。

Lampides boeticus (Linnaeus) ウラナミシジミ (鱗翅目シジミチョウ科) (図5)

2005.10.8 水生植物園 1ex ; 10.20 水生植物園 1ex ; 10.25 水生植物園 1ex ; 11.1 水生植物園 3exs MY ; 11.2 水生植物園 2exs

2005年は例年よりも目撃記録が多く、また複数の個体見られた。

Curetis acuta paracuta Nicéville ウラギンシジミ (鱗翅目シジミチョウ科)

2005.4.7 食草園 1♀; 10.13 正門前 1ex ; 10.20 水生植物園 1ex

本種には同一個体が同じ場所を数日間占有する行動が見られ (福田ほか, 1984), 園内では上記以外に教育管理棟周辺などぼきまった場所で毎年見られる。

Libythea celtis celtoides Fruhstorfer テングチョウ (鱗翅目テングチョウ科)

2005.9.3 建物跡地付近 1ex MY ; 11.1 正門付近 1ex MY ; 11.9 正門前 1ex

上記以外に食草園や路傍植物園などで毎年のように見られる (久居, 2001, 2004, 2005)。

Parantica sita nipponica (Moore) アサギマダラ (鱗翅目マダラチョウ科)

2005.6.3 路傍植物園 KK ; 10.1 2exs MY ; 10.7 路傍植物園 1ex, 水生植物園 1ex ; 10.8 路傍植物園 1ex ; 10.13 路傍植物園 1ex ; 10.20 イモリの池 1ex MY

秋にはタイアザミに訪花するのがよく見られる。

Argynnis paphia tsushimana (Fruhstorfer) ミドリヒョウモン (鱗翅目タテハチョウ科)

2005.10.2 路傍植物園 MY

園内では水生植物園で稀に見られる。

Argyreus hyperbius hyperbius (Linnaeus) ツマグロヒョウモン (鱗翅目タテハチョウ科) (図6, 7)

2005.7.9 水生植物園 1♂ ; 7.20 食草園 1♀ ; 8.20 正門前 1♂ MY ; 9.3 教育管理棟付近 1♀ KS ; 9.4 正門前 1♀ MY ; 9.30 正門前 1♀ SHM ; 10.1 水生植物園 1♂ 1♀ MY ; 10.2 水生植物園 1♂ 1♀ ; 10.6 水生植物園 1♀ ; 10.7 水生植物園 2♀ ; 10.8 水生植物園 2♀, 正門前 1♂ ; 10.12 水生植物園 1♀ KK ; 10.13 正門前 1♀, 水生植物園 1♀, 路傍植物園 1♀ ; 10.20 水生植物園 2♂ 2♀ ; 10.25 水生植物園 1♂ 1♀ ; 11.1 水生植物園 2♂ 1♀ MY ; 11.2 水生植物園 1♀ ; 11.5 水生植物園 1♀ ; 11.9 水生植物園 1♀ ; 11.13 水生植物園 1♂

2003年に再見されて以来毎年見られる。目撃頻度や個体数が年々増加する傾向があり、園内で発生している可能性が大きい。特に、2005年は都内各地で多発したとの情報があり、さらに、東京西郊にある青梅市今寺の筆者宅の庭でも帰化種と思われるスマレに本種の幼虫が付いているのが見られた。

Kaniska canace (Linnaeus) ルリタテハ (鱗翅目タテハチョウ科)

2005.3.31 食草園 ; 4.7 武蔵野植物園 ; 4.10 水生植物園 ; 4.21 水生植物園 KS ; 6.22 水生植物園前 MYO ; 7.15 武蔵野植物園 MY ; 10.2 水生植物園 1ex

雄は占有行動をとることが知られ(福田ほか, 1983), 園内では上記のほか水鳥の沼付近や食草園, あずまや前で多く見られる(久居, 1999, 2004)。皇居でも見られるが本園同様に少ない(久居ほか, 2000, 2006)。

Vanessa indica indica (Herbst) アカタテハ(鱗翅目タテハチョウ科)

2005.11.2 水生植物園 1ex

個体数は少ないが毎年のように見られる。皇居では普通種で, カラムシには幼虫の巣が多く観察されている(久居ほか, 2000, 2006)。

Apatura metis substituta Butler コムラサキ(鱗翅目タテハチョウ科)

2005.6.21 水生植物園 1♂ KS

2002年に再見されて以来, 稀ではあるが毎年上記の場所で目撃されている。

(2) そ の 他

Amphiesma vibakari vibakari (Boie) ヒバカリ(トカゲ目ナミヘビ科)

2005.10.7 建物跡地 KK; 10.12 水鳥の沼休憩所付近 KK; 10.15 館跡付近 KK; 10.28 正門前KK

10月12日は体長約20cm, 10月28日は16cmの幼蛇の記録である。

? *Apodemus speciosus speciosus* Temminck ホンドアカネズミ(齧歯目ネズミ科)

2005.12.13 森の小道出口付近 KW

本園のネズミ類については「動植物目録」(国立科学博物館附属自然教育園, 1981)に6種が記録され, 哺乳類に関する項の序文には生息状況としてヒメネズミとカヤネズミは“極稀あるいは記録のみ”とされているが, 本種は繁殖が確認されているとの記述が見られる。しかし, その後ネズミ類に関する正確な記録がなく現在の生息状況は全く不明である。今回, 若松氏が上記の場所でネズミを目撃したとの情報を得たので, 当人に図鑑などを提示したところ本種の可能性が高く, 未確認ではあるが今後の参考として記録しておく。

引 用 文 献

- 福田晴夫・浜 栄一・葛谷 健・高橋 昭・高橋真弓・田中 蕃・田中 洋・若林守男・渡辺康之. 1983. 原色日本蝶類生態図鑑(Ⅱ). 325pp. 保育社, 大阪.
- 福田晴夫・浜 栄一・葛谷 健・高橋 昭・高橋真弓・田中 蕃・田中 洋・若林守男・渡辺康之. 1984. 原色日本蝶類生態図鑑(Ⅲ). 373pp. 保育社, 大阪.
- 久居宣夫. 1987. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(1). 自然教育園報告, (18):41-44.
- 久居宣夫. 1989. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(2). 自然教育園報告, (20):1-13.
- 久居宣夫. 1990. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(3). 自然教育園報告, (21):11-21.
- 久居宣夫. 1996. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(8). 自然教育園報告, (27):21-25.
- 久居宣夫. 1999. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(11). 自然教育園報告, (30):17-24.

- 久居宣夫. 2001. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(13). 自然教育園報告, (32):31-37.
- 久居宣夫. 2004. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(14). 自然教育園報告, (35):1-13.
- 久居宣夫. 2005. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(15). 自然教育園報告, (36):21-29.
- 久居宣夫・矢野 亮・久保田繁男. 2000. 皇居の蝶類. 国立科博専報, (36):169-183.
- 久居宣夫・矢野 亮・久保田繁男. 2006. 皇居の蝶類相モニタリング調査(2000-2005). 国立科博専報, (43):137-159.
- 石田昭夫・富川 光・馬渡峻輔. 2004. 東京の都市部のカイアシ類(甲殻類) - 第二報. 日本生物地理学会会報, 59:45-48.
- 葛飾区郷土と天文の博物館. 1999. 特別展小合溜井ー水元公園の自然と文化ー. 103pp.
- 国立科学博物館附属自然教育園. 1981. 動植物目録. 自然教育園報告, (12):125-170.
- 国立科学博物館附属自然教育園. 1984. 国立科学博物館附属自然教育園動植物目録. 118pp.
- 正仁親王・久居宣夫・矢野 亮. 2005. 常盤松御用邸の蝶類. 国立科博専報, (39):147-159.
- 大和田守・有田 豊・神保宇嗣・岸田泰則・中島秀雄・池田真澄・新津修平・慶野志保子. 2005. 赤坂御用地の鱗翅類. 国立科博専報, (39):55-120.
- 自然環境研究センター(編). 2003. 新宿御苑動物相調査報告書. 34pp. (財)自然環境研究センター, 東京.
- 山崎柄根. 2001. 自然教育園で見られた直翅系昆虫. 自然教育園報告, (33):323-329.
- 吉田宗弘・安藤達彦. 2002. 赤坂御用地のチョウ類群集. 環動昆, 13(3):143-147.

訂正

自然教育園報告第35号に掲載された「自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(14)」(久居, 2004) 中で追録として記録したキアシドクガ *Ivela auripes* は, 1952年発行の「国立自然教育園動物目録第1集昆虫綱」に登載されているので追録から削除する。



図2 タネツケバナに産卵するツマキチョウ
(2005.4.23)

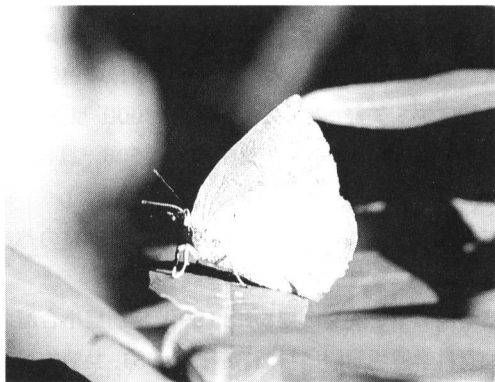


図3 ムラサキシジミ (2005.11.5)

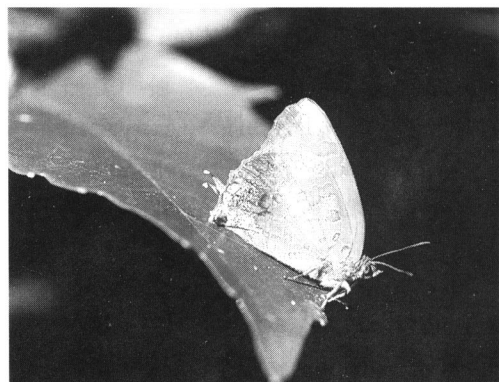


図4 ムラサキツバメの雄 (2005.11.5)

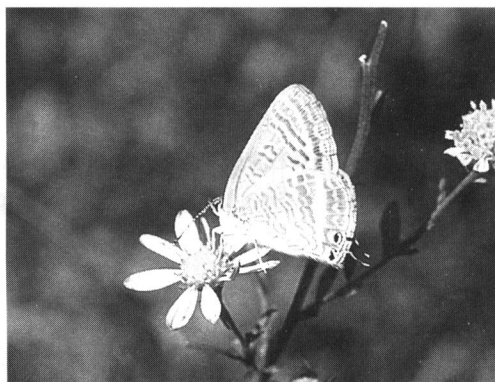


図5 ウラナミシジミ (2005.11.2)



図6 ツマグロヒョウモンの雄 (2005.10.20)



図7 ツマグロヒョウモンの雌 (2005.10.20)